

## DVが起る要因

なぜDVが起るのでしょうか？そしてなぜ圧倒的に男性から女性へのDVが多いのでしょうか？主な原因は「ジェンダー・バイアス」だと言われています。ジェンダーとは社会的・文化的に作られる性差、バイアスは偏見のことです。「ジェンダー・バイアス」とは男らしさ・女らしさに基づく偏見のことです。

「男らしさ」というと「強いリーダーシップがある・頼りがいがある・経済力がある」と考えがちで、どちらかと言えば女性よりも男性に期待が集まる傾向があります。逆に「女らしさ」というと「優しい・気が利く・料理が上手・素直・愛嬌がある」などと考えがちです。しかしこれらは男女で分ける必要はなく、個人がもっている資質や能力、努力で身につけることができるもので、すべて兼ね備えていてよいものです。

さらに、この考え方が偏っていくと、「男らしさ」とは、「競争に必ず勝つ・弱音を吐かない・権力をもつ・常に闘争心を持つ・家族を養ってこそ男だ」、「女らしさ」とは、「従順・受動的・控えめでしゃべらない・男をたてる・頼る・依存する」という意識に繋がります。その結果、男が上で女が下という上下関係が

生まれてしまい、男性の中には、女性を自分の所有物として見てしまう人も現れます。そのような男性は、女性が自分の思い通りにならないければ、力で相手を支配しようとし、その手段として、自ら暴力を選びます。女性自身も「女性は従順で男性をたてるのが当然だ」「男性はちよつとくらい乱暴でもかまわない」という意識をもっていると、「仕方がない」「怒らせた私が悪いのだ」と考え、

じつと耐えることを覚えていきます。こうしてDV加害者は「お前のせいだ」と女性に責任を押しつけ、女性はそのおかしさに気がつかないまま、常に夫やパートナーの顔色をうかがうようになり、自分自身で物事を決めることができなくなっていくます。まずは、社会や自身の中にしみ込んだジェンダーに気づくことが大切です。「女らしさ」「男らしさ」は社会が作ったものであることを理解し、自分がどうしたいのか、自分のことは自分で決めて、「自分らしさ」を考えることが重要ではないでしょうか。

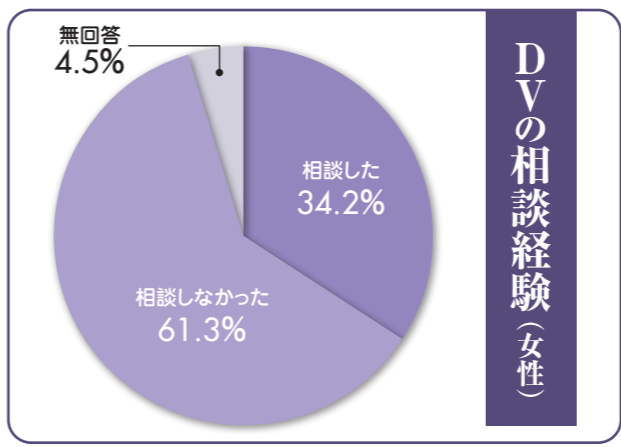
## DV被害者は誰に相談をするのか

内閣府の調査では3人に1人の女性がDV被害経験者であるという驚く結

果が出ています。では、被害を受けた女性は誰に相談をしているのでしょうか？

大田区が平成21年に実施した男女共同参画に関する意識調査によると、1度でもDVを受けたことがある方に「これまで誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか」という質問をしたところ、相談した女性は約34%で、61%は「相談しなかった(できなかった)」と答えています。(円グラフ参照)

さらに、「どこに相談をしましたか」という問いには6割弱(58.8%)の女性が「友人・知人」と答えており、次いで多いのが「家族」で54.4%でした。



出典：平成21年大田区 男女共同参画に関する意識調査報告書より

この調査結果をみるとDV被害経験者は誰にも相談しないケースが圧倒的に多く、相談する相手は身近にいる友人や家族が多いということがわかります。

## DVを見分けるサイン

「私の周りでDVの話は聞いたことがない」「DVは新聞記事やドラマの中のできごと」などと決して思わないでください。3人に1人が被害経験者で、約6割が誰にも相談をしていないという事実をふまえると、新聞等で取り上げられているDV事件は氷山の一角といえるでしょう。DVはけつして他人事ではなく、ごく身近な問題です。あなたの大切な友人や家族がひとりでも苦しまないためにも、友人や家族の以前とは異なる態度を見逃さないようにしましょう。次に当てはまるようなことがあれば「もしかして悩んでいるのかも」と考えてみましょう。

- 今まで楽しんできた趣味など興味を示さなくなった。
- あなたが誘っても外出をしなくなった。
- 何かしら理由をつけて約束を急に断ることが増えた。
- いつもパートナーの機嫌や顔色をうかがっている。

## 大したことない

傷ついた心や体の痛みは当事者でないとわかりません。自分の感覚や価値観で勝手に判断してはいけません。

## どうして早く言ってくれなかったの

誰にも相談をしないという選択をする女性が多数いる中で、やっとの思いで相談をしてきたのです。その思いを汲み取り「よく話してくれたね」と言ってください。

相談された場合「なぜ?」「どうして?」は避けて、被害者の話は時間をかけてゆっくり聞きましょう。「あなたはけつして悪くない」「あなたの話を信じます」「あなたの責任ではない」と何度も伝えることが大切です。「私にどうしてほしいですか?」と確認し、被害者が自分で決められるように支えましょう。自分自身で決めることが被害者自身の力になります。そして専門の相談窓口(6ページ参照)を案内してください。「よく話してくれましたね」「またいつでも話を聞きます」ということも伝えてください。

## 暴力を認めにくい理由 離れられない理由

- 3ページで示したようにDVの種類はさまざま複雑です。自分自身に起こっていることがDVであると認めることはとてもつらいことです。「私さえ我慢すれば」と思ったり「こんな目にあっているのは私がダメ人間だから」と感じたり、現実を認めたくないと思うこともあるようです。ではなぜDVであることをなかなか認めることができません、また認めても別れたり離れたりすることができないのでしょうか?その理由についてNPO法人レジリエンス著「傷ついたあなたへ」わたしがわたしを大切にすることということ〜DVトラウマからの回復ワークブック」より抜粋して紹介します。

## なぜ暴力を認めにくいのか

- 暴力をふるうパートナーのことを悪人と思えない(思いたくない)
- 今の生活を続けられなくなるの嫌だから

## なぜ離れられないのか

- 金銭的理由
- パートナーが変わるかもしれない
- まだ彼を愛している
- 行き先がない
- そのうち暴力が減る・なくなるかもしれない
- 離婚したくない
- 失敗したと思われたくない
- 自分を責める気持ち
- パートナーの弁解・謝罪・涙
- 子どもがお父さんを恋しがる・会いたがる etc

これら以外にも理由は数多く掲載されています。暴力を認めたくない理由も離れられない理由も人それぞれ異なることをまずは理解しましょう。

## 相談された時の心構え 「あなたは決して悪くない」

大切な友人や家族からDV被害にあっていることを相談された場合、どうすればよいのでしょうか?自分の考えや価値観で受け答えをしてしまったりかえって相談者を傷つけてしまい、その後誰にも相談しなくなる場合もあります。二次被害を与えないために相談されたときの対応について考えてみましょう。

## なぜ別れないの?

上記で挙げたように離れられない理由は多々あり、複雑です。別れないから悩み苦しんでいます。その一言で片づけることはやめましょう。

## あなたが怒らせるようなことをしたのは?

暴力は振るう方が100%悪いのです。暴力を振るう加害者をかばうような発言は厳に避けましょう。DVは犯罪であるという認識を相談される側も常にもっていないといけないかもしれません。